

淡海の川づくり検討委員会 議事概要

日 時：平成 23(2011)年 9 月 16 日(金) 14:00～16:00

場 所：大津合同庁舎 7B 会議室

出席者：淡海の川づくり検討委員

委員長、中川副委員長、佐野委員、遊磨委員、吉見委員

事務局

滋賀県流域政策局 流域治水政策室、河川・港湾室、水源地域対策室

大津土木

傍聴者：一般傍聴者、報道機関、行政官系 約 20 名

議事内容：淀川水系信楽、大津圏域河川整備計画（原案）について下記事項の議事を行いました。

- 1．地元説明会での意見について
- 2．整備計画の内容について
- 3．一般傍聴者からの意見
- 4．質疑総括(今回原案の扱いについて)

地元説明会での意見について

委員：地元説明会は地元からは何名くらいの参加がありましたか。また発言の中で特に強い要望はありましたか。

事務局：高橋川の地元住民は計 63 名参加。発言の中でも「川の改修を早く」「親水空間を活かせる水のたまる場所などの整備」「川を掃除しやすく」と特に強い要望がありました。親水施設については階段工を建部大社の近くに整備しました。大戸川の地元住民は計 80 名参加「ダム整備を望む」「破堤の経験がある 1/10 では不安」「土砂除去や樹木伐採の河川維持管理をしっかりと」等の意見がありました。

整備計画の内容について

委員：高橋川の改修が 1/50 の計画になった経緯を教えてください。

事務局：計画概要説明資料 P40 の記載の通り高橋川は、小規模で計画川幅が比較的小さく施工性や河道の安定性を考慮し、1/50 の計画としました。施工回数を分けると 2 度手間でも費用面も課題です。既に下流は 1/50 で整備が進行中です。そのまま上流 0.2km 区間も 1/50 で整備を進め、一連区間を完了させたいです。

- 委員 : Aランク・Bランク河川の整備は直列的、並列的どの様に進めるのですか。
- 事務局 : 基本的な考え方としては、同時並行・並列的で進めます。
- 委員 : 宇治川改修や天ヶ瀬ダム再開発の整備期間はどの程度ですか、大戸川の河川改修はどのタイミングで着手出来るか、わかる範囲で教えて欲しいです。
- 事務局 : 宇治川改修や天ヶ瀬ダム再開発は、淀川水系フルプランにも記載の通り、平成 27 年度完成と聞いています。完成の後、大戸川改修を始めます。それまでに堤防用地買収や築堤工事等、出来る事は進めます。
- 委員 : 黒津地点流量 550m³/s が概ね治水安全度 10 分の 1 というのがわかり難いです。
- 事務局 : 大戸川の治水計画は、ダムと河道整備を合わせ 1/100 です。黒津 550m³/s はダム放流量とダム下流の支川流量が合流後の流量とし、ダム計画と整合しています。県が先行実施する河道整備のみが完成した場合の治水安全度は、概ね 1/10 となります。
- 委員 : 総合土砂管理について、基本方針としては理解出来ますが、整備計画レベルの記述として抽象的ではないですか。土砂流出に関するデータも示されていないです。実情行っているのであれば記述し、土砂動態を踏まえた河道計画とすべきです。環境への影響もありますので、必要かつ十分な浚渫が望ましいです。
- 事務局 : 平成 22 年度から維持管理で土砂の除去をしていますが平成 23 年度の台風で再堆積しています。平面 2 次元モデルで河床変動解析を行っています(2 年目)。現状で 5~10 年後、維持管理して 5~10 年後、改修後の 5~10 年後と解析を実施しています。定点を設定し堆積土を管理したいです。堆積し過ぎてからお金を掛けまとめ取るのではなく、定期的に土砂を除去し費用を抑える事を考えたいです。多くの場所に散らばった土砂を取らない為、環境の改変も小さく出来ると考えています。土砂をためてから取る場所もあれば、除去した砂を活用する事も考えたいです。
- 委員 : B/H で州が形成されます。大戸川では堆積が進行する事が懸念されませんか。無次元掃流力とは動かす力ですか。
- 事務局 : 無次元掃流力 は土砂の移動のしやすさを数値で示したものです。B/H は砂州形成のしやすさを数値で示したものです。砂州がたまりやすい事ではないです。
- 委員 : 4.4「水害に強いまちづくり」や 4.5「地域防災力の向上」の記述を地域特性に合わせて修正してはいかがですか。その方が一般住民には伝わると思います。4.5「地域防災力の向上」の中で、地先の安全度マップ等の「提供」とありますが、「保存・発信」とし、情報発信をしている事をもっとちゃんと記述して良いのではないですか。

事務局 : 書きぶりは、実情に合わせて変えます。
委員 : どの雨を使うか、ハイエトはないですか。治水計画の材料としてちゃんとする方が良いのではないですか。説明資料に掲載してはいかがですか。
事務局 : 水文資料は、資料に掲載します。
委員 : P.7 のアマゴは放流ではないですか。水産課等に確認して欲しいです。
事務局 : 確認します。

一般傍聴者からの意見

傍聴者 : 流量配分図は、1/100 なのか、1/10 なのか再度説明をお願いしたいです。大戸川ダムからの放流量 280m³/s は、1/10 なのか 1/100 なのか教えて欲しいです。S28 洪水、s57 洪水の確率はどの程度ですか。
事務局 : 流量配分図は、ダムと河道整備で合わせ 1/100 です。大戸川ダムからの放流量 280m³/s は 1/100 の雨の時の放流量です。S28 は雨量で概ね 1/50、S57 は雨量で概ね 1/30 です。流量は、S57 の方が大きく戦後最大洪水としています。
傍聴者 : A ランクの緊急性とは 20 年で実施するという事ですか。感覚が違うと思います。
事務局 : 河川整備計画は、20 年間で計画的に実施する河川を選択しています。市民感覚の緊急性は今直ぐ行うとの認識ですが、施設が壊れた場合、災害復旧工事等で直ぐ対処するとし、A ランクの緊急性はのんびり行う事ではないです。表現は工夫します。
傍聴者 : 堤防点検の結果、危ない箇所があると聞いています。どの様に対策するのですか。
事務局 : 平成 21 年度にボーリング調査を実施し、平成 22 年度に解析を行い、安全性の確認を行いました。測量調査では、護岸工がない箇所が分かりました。過去の破堤被害は護岸工の無い場所で起きています。工事が必要な箇所は、詳細な測量とボーリングを行います。土砂と竹を除去し洪水の流れを良くしたいですが、昔の人の知恵で堆積した土と竹で堤防が守られてきたと聞いていますので、地元の方々と、現状を守るか堆積土と竹を除去し護岸構造物に作り替えるか相談して行きたいです。

質疑総括(今回原案の扱いについて)

委員 : 信楽・大津圏域河川整備計画(原案)は今回の審議でまとめ(原案)から(案)になったと思います。本日の意見は、事務局が委員個別に対応します。その上で委員長に確認し、今後の方針を決めます。

以上